

本論文は、鞍山鋼鉄公司（以下、鞍鋼と略する）を中心に実証的に分析することにより、1949－2006年の中国鉄鋼一貫企業の生産構造と生産管理の実態を明らかにすることを目的とする。

その際、国－地方（省）－企業というレベルに分けて、生産構造、事業所、生産管理の視点から分析を行い、以下のことを明らかにした。

中国鉄鋼企業の生産構造（第1章）について、国レベルの視点から中国鉄鋼一貫企業⁵³社の生産構造を分析することによって、中国鉄鋼一貫企業の歴史的な規定性を明らかにした。中国において、鉄鋼一貫企業の数が多く、存在形態もきわめて多様なものであり、先進国の鉄鋼一貫企業とは異なっている。このことは中国の重化学工業化が遅れていることを示している。

遼寧省の鉄鋼業（第2章）について、は地方レベル視点を取り入れて、中国における鉄鋼一貫企業の位置づけを明らかにした。遼寧省においては鞍鋼と本鋼を主体とする少数の大型鉄鋼一貫企業と数多くの中小型単圧企業が共存していた。鋼材生産において、鉄鋼一貫企業と単圧企業との間に分業関係が存在する。単圧企業は鉄鋼一貫企業からの原材料獲得を前提に生産を行うため、鉄鋼生産がきわめて不安定なものとなり、大型鉄鋼一貫企業に従属する存在であった。

鞍鋼の生産構造（第3章）について、事業所レベルの視点から、鞍鋼の生産構造を¹企業¹事業所段階と複数事業所段階という²つの時期に分けて明らかにした。現代的鉄鋼一貫企業への移行は1990年代末から目立つようになり、設備の大型化と現代化はきわめて短い期間で達成された、圧縮的發展であった。

鞍鋼の生産管理（第4章）について、鞍鋼における「生産調度システム」の制度形成と再編を考察した。鞍鋼の「生産調度システム」は公司レベル→工場レベル→車間（現場）レベルから構成され、公司レベルの「調度」部門である「総調度室」は生産に関する重要かつ広範な権限を持つ。今日の「生産調度システム」は導入された当時のものとはかなり異なり、現代製鉄所のような集中管理システムに近づいていった。